

01・三か月ぶりの連絡

〈シチュエーション〉

Twitter & YouTube で、動画にして投稿する宣伝用ボイス。

二人が三年生に進級する直前。

春休みの夜。

三月二十五日（月）二十時ごろ、結月が三か月ぶりに主人公に電話をかけてくるシチュエーション。

結月は非常に緊張しており、また、おびえている。

主人公と結月は昨年、とても気まずい別れ方をしたまま疎遠になった。

だから、連絡するのが怖いのである。

だが、そんな結月に、主人公は優しく対応する。

結月の緊張は会話が進むうちにほぐれ、彼女がホツとした様子になっていくのを丁寧に、わかりやすく表現していく。

また、次のトラック以降で起こる二人の落胆と悲しみを自然なものにしていく。
という内容。

通話中というシチュエーションなので、距離や位置の移動はなし。

ずっと『正面 30センチ』。

〈主人公〉

「……もしもし？」

● 正面 30センチ

■ 夜、主人公に電話をかけて、通話をスタートさせる。通話が繋がった所から「【ものすごく緊張した様子で。

声は上ずっており、一行ごとに少し間があく感じで。

そのくらい緊張しており、意を決してかけてきたのが伝わる感じで」

あっ……。

……あの。

こんばんは……。

私。

香椎 結月（かしい ゆづき）」

〈主人公〉

「こん。……どうした？ 何かあった？」

主人公、優しく返事をする。

というよりも、結月からの電話があまりにも突然かつ久しぶりすぎた。

なので『一体何事か』『もしや、結月やその周囲の人に何かあったのか』と心配し、非常に不安になっているのである。

だから正直な所、主人公もかなり緊張している。

『これからどんな事を切り出されるのか』と、こわごわ話を聞いている。

しかし、結月はまったく気づいていない。

『電話の出だしから失敗した』と思い込んで、すっかり恥ずかしくなっているからだ。

●正面 30センチ

「【恥ずかしそうに、乾いた笑いを浮かべる。

『そりやあわかるよね、私だって。名前表示が出てるんだから。

なのにわざわざ名乗るなんて、ばかみたいで恥ずかしいな』という感じで」

……はは。

【とても困った様子で、消え入りそうな声で。

『早速失敗してしまった』と思い込んでいるので」

うん。

わかるよね。

……名前、出てるもんね……」

〈主人公〉

「うん。びっくりした。久しぶりじゃん」

● 正面 30センチ

「【まだとても緊張して】

あっ」

〈主人公〉

「……どした？ 何か、あった？」

● 正面 30センチ

■ 少し気持ち的に持ち直す。

主人公がとても気を遣って、優しく声をかけてくれている事によりようやく気付いたので
「【必死に勇気を振り絞って。少しでも緊張がほぐれたので】

あのっ。

【消え入りそうな声で。

緊張はほぐれたものの、これから、非常に勇気のいる提案をしているので】

あのね……？

……よかったらで、いいんだけど……」

〈主人公〉

「……うん。聞くよ。話しな」

● 正面 30センチ

■ 主人公をデートに誘おうとしている。

行き先は、かつて主人公と何度も行った科学館。

この場所は、この一年ほどリニューアル工事で閉鎖していた。

だが最近ついに工事が終わり、再オープンしたのである。

この科学館は、当時主人公のお気に入りスポットだった。

なので結月は『ここなら、主人公も行きたがるかもしれない。デートに応じてくれるかもしれない』と思い、意を決してこの度連絡したのである。

「【緊張しながら『科学館』について述べる】

昔一緒に行った科学館ね、あったじゃない。

先週工事が終わって、新しくなったんだって。

【特にもごもと、恥ずかしそうに、消え入りそうな声で。

内心『この辺りで自分の意図に気づいてほしい！』とも思っている】
だから、その……」

〈主人公〉

「うん」

この時、主人公から漏れたのは、ほとんど安堵のため息だった。

話はまだ途中だし、油断はできない。

だが……たとえば、結月がもう二度と会えないほど遠くに行ってしまうとか、自分達と近しい誰かが亡くなったとか……そういった話ではなさそうだ。と、思えたのだ。

● 正面 30センチ

「ここまでよりも、ほんの少しだけ早口で。

だが、それでも緊張で、奇妙な所で息継ぎしてしまう。

『好きだったよね』は『主人公は科学館がお気に入りスポットだったよね』という意味】

今度一緒に、行かない？
好きだっ、たよね？」

〈主人公〉

「いいよ。行こう」

このような心配ばかりしていたものだから、主人公は、この時とても自然に『いいよ』と言えた。

もしかすると、その科学館で重要な話をされるのかも知れないが……。

それでも、ひとまず本題を先延ばしにできそうだ。

そう考えたからである。

こんな発想、いかにも小心者のそれだ。

思わず己が情けなくなるが、事実主人公という人間はそうなのだからしょうがない。

主人公は『年齢の割に落ち着いている』だの『度胸や根性が据わりすぎている』だのと表現される事が多いが、実際は全くそんな事はない。

単に感情が顔に出づらく、必要以上に堂々として見えるせいで、いらぬ誤解を受けているだけなのである。

● 正面 30センチ

■ 意外過ぎて、頭がついていかない。

断られる事も覚悟していたのに、主人公は即決で『いいよ』と言ったので

「【ぼかんとして。

※コミカルな感じではなく、自然に出る『えっ』の感じでお願いします※】
えっ？」

〈主人公〉

「行こう。

春休みはそんな予定ないし、ゆづの都合に合わせる。

いつがいい？」

● 正面 30センチ

「【ぼかんとしているなりに、状況を理解し始めた感じで】

あ……。

【少し長めに間をあけてから。

必死に思考をフル回転させ、本来ならフリーズしてしまいそうなところを、どうにか『会
う日と待ち合わせ時間の指定』をしている。という感じで】

じゃあ、次の土曜日。三十日の、十時はどう？」

〈主人公〉

「おっけ。その日なら平気。楽しみだね」

おまけに主人公は、昔から、結月の前だと格好つけがちな一面があった。
小さくて可愛くて病気がちな幼馴染。

そんな結月を守る事は主人公にとって当然の責務だったし、不安にさせるなんてとんでもない。

結月と居る時の主人公は常に余裕ぶって、彼女をほっとさせる存在でなくてはならなかったのだ。

……あの日、失敗するまでは。

● 正面 30センチ

■ 『誘いが成功した』『主人公とデートできる』という実感がわいてくる。
自分の気持ちを素直に表現できるようになってくる

「【控えめだが『ぱあっ』と声が明るくなって。】

※特に聞き手をドキツとさせるイメージでお願いします※」

ほんと？」

〈主人公〉

「ほんと。」

科学館行くなら、待ち合わせ場所はどこにする？

科学館前駅って結構広いよね。

うちの地元駅の方が会いやすいかも」

ともあれ、主人公は今回も己を大きく見せる事に成功した。

あからさまに自分におびえ、小さくなっている結月に、安心感と期待を与える事に成功した。

むろん主人公はそれらを裏切る気などなかったし、今後の行いで、より強固なものにしていくつもりだった。

そしてこれを足掛かりに……もしできる事なら、以前のような関係に戻りたい。そう思っていたのだ。

● 正面 30センチ

■ とても嬉しくなりながら、待ち合わせ場所を『地元駅の、昔よく待ち合わせしていた場

所にするのはいかが』提案する。

主人公がデートについて前向きで、自分から待ち合わせ場所について考えてくれているので

「先ほどまでよりも明らかに、一段階声が明るくなって、声が弾んで。

少しだけ早口になって」

じゃああの。

駅のあの、改札のところで待ち合わせはどう？

昔も、いつもあの場所にしてたよね」

〈主人公〉

「わかった。あそこに、土曜日の十時ね。

楽しみにしてる」

つまりこの時、二人の気持ちと目標は一致していた。

それは『久しぶりの連絡を機に一緒に出掛けて、三か月前のような関係に戻る』『そのためなら、多少の無理はしてもいい……』というものだ。

だけど、二人はこれから、再びすれ違う。

どちらかに非があるわけではないのに、傷ついたり、傷つけたりして、お互いの真意が

わからないまま心の距離が開く。

そんな、三か月前のような事を繰り返してしまうのだ。

● 正面 30センチ

■ 主人公の言葉に舞い上がっている。

『こんなやりとりができるなんて、まるで以前のようだ』『もしかしたら、自分たちは元通りの関係に戻るかもしれない』という期待で胸が膨らんでくる

「【※息遣いのみ※】で表現する。

喜びと驚きの、感嘆の呼吸」

……！

「ちょっと恥ずかしそうに。

『はしやぎすぎたかも』と照れている感じで。

一度は気持ちを抑えようとする。

だが、セリフ終わりに向かうにつれ、喜びを隠しきれなくなっていく感じで」
あ……。

……うん！ 決まりね。

土曜日、待ってる。……待ってるから！」

〈主人公〉

「遅れんなよ？」

● 正面 30センチ

■ 主人公が昔のようなくだけた態度をとってくれて、とても嬉しい

「【とても嬉しそうに】

うん！

【少し間をあけてから。

ちよつと恥ずかしそうに。

『また、はしやぎすぎたかも』と照れている感じで】

それじゃあ、またね。

【少し長めに間をあけてから。

とてもホツとして、泣きそうになっている。

思わず気が緩んで『勇気を出して連絡してよかった』と素直な気持ちをこぼす】

……ありがとう。

【少し涙声で】

かけて、よかった……。

またね！」

ここでフェードアウトして終了。